

# 2023年度 海外研修旅行（イタリア）の報告

鈴木泰成・長谷川達也

## 1. はじめに

本学では、教育課程の中でキャリア開発科目として「海外研修Ⅰ」（選択1単位）を設置しています。この科目は実際に海外に赴き、その国における自動車産業の考え方を学ぶとともに、訪問国の歴史や文化に直接触れることで自己の見識を広げ、キャリアアップを図ることを目的としています。本学はイタリア国立フェラーリ工業専門学校と提携しているため、研修先をイタリアとしています。イタリアには世界的に有名な自動車メーカーが多く存在し、また国の歴史が深いことから、学生にとって非常に興味深い場所であると考えます。

## 2. 旅程

「海外研修Ⅰ」は、自動車に関する研修および文化研修の2つを軸として旅程の検討を行っています。自動車に関する研修では、工場や博物館を訪問し、自動車メーカーの歴史や自動車開発に対する考え方などを学ぶことを目的としています。また、文化研修では建造物や街並みを見学し、歴史や文化を学ぶことを目的としています。これらを考慮して、自動車メーカーがあり、世界遺産も数多くあるイタリア北中部を研修先と選定しました。研修期間を8月27日から9月3日とし、自動車に関する研修ではフェラーリ工場および博物館、ランボルギーニ博物館、アルファロメオ博物館の訪問を予定しています。また、文化研修ではローマ、ヴェネツィア、ミラノを訪問することとしました。海外研修の旅程を表1に示します。

表1 海外研修Ⅰ 実施旅程

| 月 日         | 都市名               | スケジュール  |
|-------------|-------------------|---|
| 8/27<br>(日) | 関西～ドバイ<br>(機中泊)   | 名古屋駅「銀の時計」前に集合、バスで関西国際空港へ移動<br>関西国際空港で団結式<br>エミレーツ航空 EK317便でドバイへ                              |
| 8/28<br>(月) | ドバイ～ローマ<br>(ローマ泊) | エミレーツ航空 EK97便でローマへ<br>ローマ到着後、バチカン市国およびローマ市内観光<br>サン・ピエトロ大聖堂、スペイン広場、トレヴィの泉、コロッセオなど<br>レストランで夕食 |

|             |                                |   |
|-------------|--------------------------------|---|
| 8/29<br>(火) | ローマ～ヴェネツィア<br>(ヴェネツィア泊)        | ホテルで朝食後、ローマ市内自由散策 真実の口、パンテオンなど<br>午後、列車でヴェネツィアへ移動<br>到着後レストランで夕食  |
| 8/30<br>(水) | ヴェネツィア<br>(ヴェネツィア泊)            | ホテルで朝食後、水上タクシーでサン・マルコ広場へ移動<br>ゴンドラ乗船、ガラス工房見学<br>レストランで昼食後、自由行動 サン・マルコ大聖堂、ドゥカーレ宮殿など                              |
| 8/31<br>(木) | ヴェネツィア～ミラノ<br>～マラネロ<br>(マラネロ泊) | ホテルで朝食後、列車でミラノへ<br>アルファロメオ博物館見学<br>レストランで昼食後、ミラノ市内観光<br>スフォルツェスコ城、ドゥオモ、ガレリア、スカラ座など<br>マラネロに移動後、ホテルでフェラーリ校関係者と会食 |
| 9/1<br>(金)  | マラネロ<br>(マラネロ泊)                | ホテルで朝食後、フェラーリ工場、ランボルギーニ博物館見学<br>レストランで昼食後、フェラーリ博物館見学<br>レストランでフェラーリ校関係者と会食                                      |
| 9/2<br>(土)  | マラネロ～ミラノ<br>ミラノ～ドバイ<br>(機中泊)   | ホテルで朝食後、ミラノ・マルペンサ空港へ移動<br>エミレーツ航空 EK206便でドバイへ   |
| 9/3<br>(日)  | ドバイ～関西                         | エミレーツ航空 EK316便で関西国際空港へ<br>関西国際空港で解団式<br>バスで名古屋駅へ移動、到着後解散  |

### 3. 参加募集および説明会

研修旅行の参加人数を25名と設定し、4月の入学式終了後に新入生の保護者を対象に案内を行いつつ、募集を開始しました。また、全学生に対してガイダンス内で案内を行い、その結果、ネパール国籍の学生1名を含む20名の学生が参加することとなりました。

5月以降、数回にわたり説明会を開催し、パスポートの申請、旅行保険の加入、クレジットカードの作成、現地での注意事項などの指導を行いました。また、ネパール国籍の学生に対してはビザ申請の指導も行いました。ビザの申請には申請書の他に英語表記の旅程、ホテルの予約証明書などが必要となるため、旅行会社の協力を得て書類の準備を行いました。

なお、研修先に関するさまざまな情報をまとめたガイドブックを作成し、参加学生および保護者に配布しています。

### 4. 研修旅行の行程

研修1日目、15時に名古屋駅に集合し、バスで関西国際空港へ移動しました。各自がチェックインを済ませた後、研修旅行が参加者にとって有意義なものになるよう、また無事に終了することを再確認するために団結式を行いました。23時45分にはエミレーツ航空でドバイ経由でローマ・フィウミチーノ空港へ向けて出発しました。

研修2日目、ローマ・フィウミチーノ空港に到着しました。ネパール人学生は入国ゲートが別

となり、多少時間がかかりましたが、全員が無事に入国を完了しました。その後、専用バスにてローマ市街へ移動しました。学生たちはバスの車窓から眺めるローマの街並みに大変感動し、すぐにイタリアの魅力に取り込まれた様子でした。

ローマ旧市街に到着後、最初にバチカン市国を訪問しました。これは世界最小の独立国家であり、国土全体が世界遺産となっていること。

また、イタリア人ガイドが歴史や建造物について丁寧に説明してくれたおかげで、学生たちはより興味深く見学することができました。写真1は、バチカン市国にあるカトリックの総本山として敬虔な信者が集うと共に、文化遺産の多い観光地としても人気を誇るサン・ピエトロ大聖堂です。広場周りの建造物や教会の壮さに学生は驚きを隠せず、感嘆の声が上がりました。その後、スペイン広場やトレヴィの泉、コロッセオなどを見学しました。これらは一度は耳にしたことがある場所でしたが、実際に訪れ保存状態の良さを目の当たりにしたことで、イタリア国民が歴史をいかに大切にしているかを実感していました。



写真1 バチカン市国 サン・ピエトロ大聖堂

研修3日目、午前中は自由時間とし、希望者を募り前日に見学できなかった真実の口やパンテオンなどの見学案内を行いました。文化研修の一環として学生が様々な経験をするを鑑み、ここでの移動には地下鉄を利用しました。

午後には特急列車でヴェネツィアに移動しました。イタリアでは乗車する特急列車が発発するホームが直前まで分からないため、電光掲示板を常に確認しなければいけないなど、日本との違いに驚いた様子でした。移動には約4時間を要しましたが、学生にとっては貴重な休息時間となりました。ヴェネツィアに到着した時には日没を迎えていましたが、島全体に張り巡らされた水路に街灯の灯りがゆらめき、この幻想的な景観に学生は魅了されていました。

研修4日目、この日はヴェネツィアでの研修を主体としました。サンタルチア駅付近からサン・マルコ広場まで水上タクシーで移動する間、海から見る島の景観に感動していました。到着してすぐに、ヴェネツィアの風物詩である gondola に乗船しました。建物に挟まれた細い水路を巧みに移動する操船技術に学生たちは驚きを隠せませんでした。その後、ヴェネツィアン・



写真2 サン・マルコ広場 冠水の様子

ガラス工房を見学するなど、ヴェネツィアの文化を満喫しました。

今回の訪問ではサン・マルコ広場が冠水していました。写真2では、その様子が分かります。これは高潮が主原因であり、温暖化による海水面の上昇の影響で将来的に水没の危機に直面していることを目の当たりにしました。



写真3 アルファロメオ博物館入口

研修5日目、ヴェネツィアから特急列車でミラノへ移動しました。ミラノ中央駅に到着後、専用バスでアルファロメオ博物館を訪問しました。写真3は、博物館入口に飾られたエントランス写真の一部です。市販車からコンセプトカー、スポーツカーなど歴代の自動車の時系列で展示されており、時代の移り変わりと共に変化する自動車の形状や性能に学生たちは興味津々で見学していました。その後は文化研修のためにミラノ市街に移動し、徒歩でスフォルツェスコ城を経由してドゥオモへ向かいました。ドゥオモに入場するとその静肅な雰囲気と荘厳さに学生たちは圧倒されていました。

研修6日目、この研修で学生が最も期待しているフェラーリ工場を訪問しました。正門から敷地内に入場すると、学生たちは感動を隠しきれない様子でした。まずはエンジン組み立て工場を見学しました。建物は自然光を多く取り入れ、工場内では樹木を栽培するなど、従業員に対する環境面の配慮がなされていました。仕事面では各技術者の成績が公表されるなどの工夫があり、これにより互いの作業を意識し合うことで品質だけでなく、技術の向上を図っていることが分かりました。次に組み立て工場を見学し、部門ごとに時間が制限されており、その時間内で担当者が責任を持って部品を組み付けていました。最後にF1の開発、メンテナンス部門を見学しました。レース直前であったためマシンはなかったが、特にモータースポーツエンジニアリング学科の学生にとっては、興味深い施設でした。学生はここまでの見学でフェラーリの従業員全員がプライドを持って作業を行なっていることを感じたことでしょう。

その後、ランボルギーニ博物館を見学しました。写真4は、館内に展示されたランボルギーニ350GT。写真5は、ランボルギーニ初のハイブリッド車である Revuelto で、博物館建物の外に展示されており、入館前から学生の博物館に対する期待値は最高潮に達しました。イタリアでは展示車両に対して柵などで囲われておらず、間近で見ることができると、車の細部から室内まで洗練された構造に感激していました。この日はフェラーリ博物館の見学も行い、イタリアを代表するスーパーカーを余すところなく堪能しました。写真6は、フェラーリ博物館の入口でフェラーリのシンボル「プリンチベ・デ・ウルビーノ」(Prancing Horse, 跳ね馬)の前に参加者全員が集まり、記念写真を撮った様子です。



写真4 ランボルギーニ博物館 350GT



写真5 ランボルギーニ博物館 Revuelto

研修7日目と8日目、帰国のためにミラノ・マルペンサ空港へ移動し、ドバイを経由して関西国際空港に到着しました。空港にて、「海外研修Ⅰ」が無事に終了したことを祝して解団式を行いました。



写真6 フェラーリ博物館

## 5. 考 察

新型コロナの影響により、過去3年間は海外研修が中止されてきました。今回の催行にあたり、世界規模の経済状況の悪化や円安など、日本経済の悪化に関する懸念がありましたが、実際には多くの学生が参加し、学生たちの期待度が高いことが確認できました。

現地では学生たちは自ら進んで物事を行い、不明な部分は自分で調べる自主性と積極性、互いに協力して物事に取り組む協調性、そして現地のガイドや店の店員との会話を通じて少しでも言語を習得しようとする向上心を確認できました。ただし、語学能力の不足によりコミュニケーションが難しい場面もあり、多くの学生が外国語、特に英語の重要性を実感しました。自らの経験から様々なことに気づくことは重要であり、キャリア開発科目としての目的が達成されたと考えています。

海外の自動車工場や博物館を訪れたことで、自動車に関する歴史や考え方、企業内での働き方など、日本とは異なる側面を感じた学生がいました。また、文化研修で各都市を訪れ、数々の歴史的建造物を見学することで、世界の歴史に興味を持った学生もいました。何千年にもわたりこれらが受け継がれていることに対して、全ての国民が自国の歴史にプライドを持ち大切にしていることを実感していました。現代社会において常に新しいものを追求める中で、古き良きものを継承することの大切さを学んだことでしょう。

研修中に環境問題に意識を向けた学生もいました。行程内にも触れましたが、ヴェネツィアの水没は古くから発生していますが、地球温暖化の影響によりその頻度が増しているようです。経済の発展に伴い、世界中で美しい景観が失われつつある中で、自動車産業と環境問題、資源の枯渇などは密接に関係しています。将来自動車産業に携わる学生には、これらの問題にも意識的に取り組んでもらいたいと思います。

## 6. ま と め

今回の海外研修では、初めて海外を訪れた学生が多く参加しました。旅行先で積極的に行動することは旅の醍醐味とも言えます。今回の研修で学生たちがその姿勢を見せたことは非常に頼もしいことです。海外での経験は、その後の自らの人生においての糧となり、また世界を知ることが社会活動において強みとなると考えます。

この海外研修は、国立フェラーリ工業専門学校の関係者の多大な協力で成り立っています。一般の者が入ることが難しいフェラーリ工場を本学の学生が訪れることができるのは、国立フェラーリ工業専門学校と本学が深い絆で結ばれているからです。ここに改めて感謝の意を表します。また今後においても、コロナ禍で中断していた様々なプログラムを再開し、両校の関係が一層深まることを期待します。

最後に、この海外研修を実施するにあたり協力をいただいた教職員の皆様、研修の調整および現地での案内をしていただいた神野学園本部の蜂須賀氏に深く感謝の意を表します。